韓国・公労総と全消協の意見交換

２０２３年10月25日（水）、東京・品川ＡＰアネックスにて、大韓民国・公務員労働組合総連盟国家公務員労働組合消防庁支部（以下、韓国公労総）の高鎮永（コウ・ジンヨン）委員長、以下４人と意見交換を実施した。全消協からは須藤会長、佐藤副会長、長谷部副会長、岡事務局次長、公務労協から吉澤相談役、自治労から上野法対労安局長、藤岡書記が出席した。

冒頭、須藤会長と高委員長が挨拶し、それぞれ自己紹介を行った。

公務労協の吉澤相談役が日本の消防職員の給与に関する説明を行った上で、「日韓における行政職と公安職（警察、消防）の給料表の差の水準の根拠」について問題提起をした。

●韓国と日本の比較からみた消防職員の給与に関する考察

韓国側からは基準の根拠はわからないとしながらも、以下の見解が述べられた。

❶韓国では公務員の給与は民間を下回るべきという国民感情があり、民間を上回ることについての国民的な合意を形成することができない。公務員は国民への奉仕者であるから、大企業賃金水準には及ばないということも考えられる。

❷歴史的に、「文」が優秀で、「武」を下に見るという形が残っていることも考えられる。

❸公務員の賃金が大企業よりも高く設定された場合、優秀な人材が公務員に集中することとなり、国際競争力を弱め、国家的な損失につながりかねない部分もある。

その上で、高委員長から、「消防は危険なところで働く特殊な領域の公務員であり、一般の労働者における労働の概念とは異なる。消防という特殊性に見合うだけの別途の賃金体系をつくる必要があり、消防労組としても訴えていく」と発言があった。

韓国では２０２１年７月に消防公務員に対し、団結権および団体交渉権を付与している。

また、意見交換の中で、韓国の消防公務員は、これまでの要求の結果、１当務24時間拘束のうち仮眠時間、食事時間等も含めすべての時間が勤務時間として扱われている（１当務＝３日間とカウント）ことがわかった。

全消協は、今後も書簡交流を含めた意見交換を実施していく。

意見交換の様子

全消協第54回労働講座の開催

消防職員をめぐる状況の見識と消防の仲間との交流を深める

２０２３年12月１～２日、東京・自治労会館で開催し、全国から37単協59名（未組織２名）が集まった。

講座の開催にあたり全消協を代表し、須藤洋典会長が主催者挨拶と本講座の趣旨を説明し、「今回の労働講座は役員や役員候補の方々にお集まりいただいている。トップダウンではなく、ボトムアップを行ってほしい。単協一人ひとりの底上げが重要で、役員だけが動くのではなく、全員で活動しないと職場環境は良くなることはない。この講座が今後の皆さま方の職場環境改善につながることを切に願う」と述べた。

各講座の紹介

【講座Ⅰ 政治・選挙】

講師：自治労本部 総合政治政策局 政治局長　佐藤 久美子

自治体職員の仕事は、国会や地方議会で決められる予算をもとに執行され、また、賃金・労働条件なども法令で定められている。そのため、政治に無関心であったとしても、無関係ではない。政治活動と選挙活動とは異なるもので、公務員の処遇改善にむけては、自治労組織内議員との連携が重要である。国会で消防の現場を理解している国会議員の方々が発言することで、法改正へとつなげていくことから、協議会活動と議員の方々との連携は切っても切り離すことはできないものである。

【講座Ⅱ 組織強化】

講師：全消協 事務局次長　岡 大祐

組織は人同士のつながりによって成り立つもので、組織強化はすべての世代の人材育成に取り組むことが大切。数は力であり、単協だけではなく、県、ブロック、また異業種の方々と情報交換をすることにより、私たちがめざす明るく民主的な職場を構築することができる。全消協活動のＳＮＳ発信（Ｆａｃｅｂｏｏｋ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ、Ｘ）、昨年度のホームページリニューアル、全消協ニュースなど広報活動に取り組んでいる。まずは、協議会が発信した情報を会員に知ってもらい、理解を得ることが重要である。

【講座Ⅲ 消防職員委員会】

講師：全消協 事務局長　川北 研人

消防職員委員会は、大前提として団結権の代替措置ではないということを再認識し、団結権の必要性を訴えた。また、消防職員委員会は消防組織法で定められた権利で、最大限に活用していくことが重要である。今回、グループワーク後に、各班で当局側と委員側に分かれて模擬消防職員委員会を実施した。それぞれの自治体にあわせてさまざまな意見提出と協議のロールプレイングを行った。

【講座Ⅳ 労働安全衛生】

講師：自治労本部 総合労働局 法対労安局長　上野 友里子

消防職場は、職務の特殊性からストレスが生じやすく、ハラスメントが多発している。職務上の地位や、職場内の優位性などから行われる暴力行為等は絶対に許されるものではないが、消防は人命に関わる仕事であることから、一定程度の厳しい指導が必要な場合もある。そこで、指導を行う側、指導を受ける側の双方が、働きやすい職場をめざしてハラスメントに対する知識を共有し、働きやすい職場をめざしてハラスメント対策の強化を行っていかなければならない。

【講座Ⅴ 国際連帯】

講師：全消協 事務局次長　長谷川 亜純

２０２３年10月に開催されたＰＳＩ第31回世界大会に全消協から４人参加し、世界の労働組合の方々と意見を交わして交流を深め、日本の消防職場の現状を訴えたことを報告した。ＩＬＯから日本の公務員に労働基本権、消防職員に団結権を付与するよう、すでに11回勧告がなされており、現在は12回目の勧告をめざし取り組みを進めている状況である。

最後に、須藤会長が総括として「知識の差や学ぶべき課題が異なる中で、持ち帰って活動を活発にするためには、さまざまな考えがあると思うが、会員から上がってくる声をどう拾うか、この活動をどう知らせ、どのような意見を上げるかが重要になる。地元に帰って勉強会を開くことや各所に出向いて話をして、会員の皆さんから意見を拾い上げてほしい。その声が県消協、ブロックを経て全消協に集まり、国会議員や国際連帯組織を通じて、職場環境の改善

模擬消防職員委員会の様子

つなげていきたい。今回の労働講座を通じて皆さんとつながりができたので、何でも問い合わせをしてほしい。われわれは時間が許す限りお答えし、皆さんのところにも伺いたい」と述べ、講座を締めくくった。

労働講座全体集合写真

新規単協の結成

森町消防職員協議会

森消協結成

全国の皆さま、はじめまして！ この度、10月6日に結成いたしました森町消防職員協議会です。結成の際には、全国からたくさんのご祝詞をいただきましたことに感銘を受けました。これからは全消協の仲間入りをさせていただき、一致団結して問題解決に邁進してまいりたいと思います。

わが「森消協」は、北海道の道南地区にあり、北海道消防職員協議会の函館ブロックで7番目の単協として誕生しました。結成には、とても熱い思いとエネルギーが必要だったのですが、ブロックの仲間や道消協・自治労北海道本部、全消協から応援を、そして広島での研究集会時と函館市での全消協定期総会時にアドバイスをいただきまして、全国の心熱き仲間たちに後押しされながら結成に辿り着きました。

森町は、結成に至るまで「消防職員協議会」とは接することなく、何も知らないわずか44人で構成する単独消防でしかありませんでした。地元職労との交流もなく、「井の中の蛙、大海を知らず」そのものでした。

そんな中、プレホスピタルコースでお世話になっている仲間から情報を得て、考える機会が徐々に増えていきました。結成の決意をした時はコロナ禍の真っただ中でしたが、コロナに負けず団結して現場の過酷さを収集し、消防庁へ改善要望を提出したり、ウェブシステムなどを駆使して研修会を行っている活動を目のあたりにしました。協議会活動は、公務として普段の本来業務とは一線を画しているという印象を受けましたし、ただただ自粛傾向にあった本来業務とは、考え方も向いている方向も違っていました。森消協は、コロナ禍での消防協の活動に触れ・支えられ・育てられて誕生したといっても過言ではありません。

森消協は、小野前副会長が仰っていた「バタフライ・エフェクト理論」を興すことができるよう邁進してまいります。そして、傲慢なエゴは持たず、「月を見て、己の目で見ていると思うな、月に照らされて見ているのだ」の精神を心に留めて活動を進めていきたいと思っています。

最後に、単協旗について。地元の森町は道南地方では有数の桜の名所であり、活動は職員のためだけでなく、地元へも知識や活動を還元したいという思いから、桜色の単協旗とさせていただきました。そして、消防の〝消〟の中にも桜の花弁を2枚あしらったアレンジをしています。次回の全消協定期総会で新規単協の承認をいただける際にご披露できる機会があればと思います。

全消協の皆様とともに活動することが、単協の成長にもつながっていくと信じておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

森町消防職員協議会　会長　豊岡 晃功

三笠市消防職員協議会

三笠消協結成

三笠市は、道内各地へのアクセスが非常にしやすい、北海道のほぼ中央に位置しています。周囲は山に囲まれているため、夏は緑、秋は紅葉、冬はもう勘弁してほしいくらいの白銀と、四季折々の景色が楽しめ、空気と水は綺麗で、その環境から作られる農作物はとても美味しいです。

そんな素晴らしい環境ですので、市街地でもあたり前のようにキタキツネやエゾシカが普通に闊歩しています。春秋はヒグマの目撃も絶えません。郊外には桂沢国設スキー場、桂沢湖もあり、市の中心を幾春別川が流れ、田畑や水田も多く、道外の方が抱く北海道のイメージが濃縮されたような市です。

また、三笠ジオパークが誕生して10年となり、毎年行われているジオツアーは大変好評で、参加者数も右肩上がりとなっています。ジオパークをはじめ、三笠北海盆踊りや紅葉まつりなど、市役所や商工会、市民が一体となって三笠市を盛り上げており、市立化して蘇った三笠高校の生徒のめざましい活躍も相まって、近年の三笠市の知名度は飛躍的に向上しています。

炭鉱最盛期は6万3000人ほどいた人口も年々減少し、現在は約7500人です。その半数近くを65歳以上の高齢者が占めている状況ですが、移住定住政策により、日本が抱える少子高齢化の波に必死に抗っています。人口数では全国に815の市がある中で813位という非常に小規模な市のため、三笠市消防本部も職員数34名（うち1名は市役所へ出向中）という非常に小規模な消防です。

そのような中、仲間と結成をサポートしてくれた方たちに恵まれ、2023年11月16日、有志一同で決意してから4ヵ月弱で三笠市消防職員協議会を結成することができました。協議会と連携して凝り固まった昔からの考え方や体制を見直し、職場環境を少しでも良くすることで職員の士気を高めていくことができれば、市民サービスの向上につながり、市民にとっても非常に有益であると思っています。

もちろん、すぐに結果は出ませんが、改善すべきことに対して声をあげることが大事ですので、ここだけは妥協せず、会員全員で一致団結して継続していきます。

最後になりますが、三笠市消防本部の若手は非常に優秀であり、皆かわいいです。また、若手の仲の良さは管内でも有名で、普段の仕事や災害対応の際にも活きています。この若手がさらに経験を積んで先頭に立って消防を引っ張る時が、三笠市消防本部の黄金時代になると勝手に思い込んでいます。その時までに少しでも働きやすく、誇りを持って働ける環境にしてから、黄金時代を担う若手たちにバトンタッチできるようにするため、設立時のバタバタ期を何とか乗り切り、微力ではありますが会長として自分のできることを全力で全うしていくつもりです。生まれたてホヤホヤのベビーな組織ですが、ベビーには成長しかありません。

皆さまからのご指導ご鞭撻を栄養源とし、すくすくと成長していきますので、これから何卒よろしくお願いいたします。

三笠市消防職員協議会　会長　大政 千晃

総務省消防庁に対し「消防行政の充実強化に関する要望書」を提出

２０２３年11月16日（木）、２０２４年度予算確定を見据え、総務省消防庁に対し、「消防行政の充実強化に関する要望書」を提出した。

消防庁からは畑山消防・救急課長、稲垣消防・救急課長補佐、松本消防・救急課係長、安藤救急企画室課長補佐、安藤総務課事務官が出席、全消協からは四役全員、自治労からは上野法対労安局長が出席した。

畑山消防・救急課長に要望書を手交した後、次の７点の要望項目のうち５点の重点事項について、稲垣消防・救急課長補佐より回答を受けた。

【要望項目】　●印が重点事項

❶消防行政の充実と労働安全衛生体制の構築について
●労働安全衛生対策の一層の強化
❷救急業務等について
●救急需要の増加に伴う救急車の配備数および人員の見直し
❸緊急消防援助活動等について
❹働きやすい職場環境の整備について
●ハラスメント対策
●女性消防吏員の活躍推進
❺広域化について
❻その他労働条件に関する事項について
●高齢期職員の働き方についての協議の機会の設置と具体的な事例の提供
❼消防職員との協議の継続・推進について

畑山消防・救急課長と須藤会長が要望書を交わす様子

回答を受け、５つの重点事項について、各地の消防職員の現状を訴え、意見交換を実施した。

また、過去最多となった救急件数に対する取り組み状況についての全国調査や負傷、殉職事故等の要因調査の実施のほか、定年引き上げへの対応として、電動ストレッチャーや軽資器材などの財政措置の検討、高齢期職員の働き方の先進事例の情報提供などを要望した。これらの要望に対し、消防庁からはそれぞれの項目について明確な回答は得られなかったが、要望書に対する総務省消防庁からの回答を得るだけにとどまらず、充実した意見交換で「全消協」に結集した全国の会員の意見を政府に直接届けることができ、お互いの理解を深める意義のある活動になった。

全消協は、今後も消防庁に対し職場実態を訴えるとともに、実態に即した政策提起を行い、より良い消防行政の確立にむけた取り組みを進めていく。

意見交換を実施する様子

佐藤副会長が訴えかける様子

半鐘のこだま

２０２３年、北海道ブロックで続けて協議会が結成されました。まず、結成に際し、尽力された関係各位の方々に敬意を表します。結成にあたるまでの苦労、時間、障害…あらゆる困難を一つ一つ解決し、結成につながったものであると想像します。全国各地で協議会結成をめざした同志たちはたくさんいますが、そのほとんどは志半ばで協議会の結成を断念しています。私自身も以前、協議会結成をめざす未組織の方との協議の場に同席させてもらい、意見を述べ、携わる機会を与えてもらいました。しかし結成には至らず、10年近く経った今でも進展がない状況です。当時を思い返すと、私はユース会員の代表という立場で席についていましたが、協議会に関しての知識が乏しく、その場に座っているだけという状況でした。そんな苦い経験を思い返し、以前、前任の幹事が口にしていた「理論武装」という言葉に感銘を受けました。この言葉の意味は、個人個人が知識という武器を携え、あらゆる場で「闘い」に挑まなければならない、と私は解釈しています。これは、協議会として当局側との交渉のためだけではありません。消防職員として、また社会人として知識を深める必要があると考えます。協議会活動においては、未組織へのオルグ活動の際に、熱意や意義をただ伝えるのではなく、理論に裏打ちされた事実を提供できれば、相手は協議会の必要性をより理解でき、説得力にもつながると思います。「数は力」の言葉通り、一人が理論武装するのではなく、一人でも多くの会員が武装できるよう、学習会等を通じ知識を蓄えなければなりません。協議会離れが危惧されている昨今、各会員の方がモチベーションを保ち、理論武装に励むことは容易ではないかもしれませんが、まずは一つ自分を守る盾となる知識を身につけてみませんか。年々バージョンアップが必要な装備ではありますが、自分を守り、組織を守り、そして相手と対峙するために必要なこの「理論武装」。

理論武装集団となり、全国各地で協議会結成のニュースが飛び交う日をめざして、ともに頑張りましょう。

森﨑 雅己（近畿ブロック幹事、奈良県広域消防職員協議会）

全消協ではホームページのほか、Facebook・X・Instagramを開設しています！

今後の予定

2024年 2月27日（火）・28日（水）
第9回女性交流会（東京都）

2024年 3月11日（月）・12日（火）
第6回ユースStep Upセミナー（東京都）